

あれから3年

# 東上のカジカガエル 人工孵化の取り組み



東友枝川で、ホタルを鑑賞しながらカジカガエルの美しい鳴き声も楽しんでもらうと、平成23年から始まった活動も5年目を迎えました。平成24年の『上毛のいぶき vol.14 秋号』での紹介から3年経ち、その後の活動の様子を今回地元の皆さんにご一緒させていただき、卵探しから放流まで取材しました。



6月6日(土)卵探しの顔ぶれ

見つけたカジカガエルの卵

## 梅雨の晴れ間に卵探し

6月6日(土)、14日(日)に、かじか同好会代表の三田実さんから連絡をいただきカジカガエルの卵探しにおじゃましました。長靴を履き三田川に入り、メンバーの皆さんは慣れた様子でここだという場所をさぐっていきます。6日は水かさも高く不発でしたが、14日はたくさんの卵のほか、数匹のオタマジャクシと、つがいが見つかりました。このあと卵は大切に飼育され、カエルの姿になるまで育てた後に川に戻されます。

取材中も、ときおりカジカガエルの鳴き声が聞こえ、活動が実を結び始めた様子が感じられました。

## 元気に育った オタマジャクシ

6月30日(火)、卵が孵かつたと連絡をいただき、さっそく東上へ。飼育ケースの中ではおよそ200匹のオタマジャクシが元気よく泳ぎ回っていました。メンバーに何うと、餌は卵の白身の他に、メダカ用のものを与えているそうで、見ていると口をパクパクさせて食べているのが分かります。やや大きめの数匹は前回見つけたオタマジャクシで、気のせいかもしれませんが尾の付け根付近に足らしきものが見えました。

三田さんは、夜中にトイレに起きて、ちよつと飼育箱の前を通りかかっても様子が気になってしまいうので、「子どもとおんなじだ」と笑っていました。

記録帳によれば、一昨年の記録では、卵から孵かつて一月後には放流したそうです。もうまもなく、カエルの姿になるのでしょうか。

## 川に帰ったカジカガエル

8月8日(土)、いよいよ川へ帰す日が来ました。早いものは7月15日頃には立派にカエルの姿になっていたそうで、この日は約150匹を三田川と、東友枝川へ放流します。

実はこのカエルになつてからのエサが難しく、オタマジャクシに与えていた餌にはなかなか食いついてくれず、残念ながらカエルに育つてから、50匹くらいが死んでしまったそうです。はっきりした原因は不明ですが、これからの課題です。

放流は、三田川の卵採集場所と、毎年のホタルウォークのコースでもある東友枝川の二箇所を実施しました。河原に放されたカエルたちは、元気よく山側へ跳ねていき、皆さんは、「元気だな」、「大きくなつて鳴き声を聞かせてね」など声をかけながら見送っていました。

地域の皆さんによって続けられてきた活動は徐々に実を結び、川には確実にカジカガエルが増えてきています。今年の6月も、ホタルの乱舞とカジカガエルの呼び声が美しく聴かれました。

### 取材あともがき

実をいえば、筆者はカジカガエルの鳴き声を知りませんでした。取材中に何度も声を聞き、メンバーから「ほら、今聞こえたのがそれだよ」と教えられ、初めて「知った」のですが、初めて「聴いた」ではありません。「ああ、この鳴き声かそうだったんだ」というのが実感です。知らない何を感じなかったことを、これからはいろいろな意味を持って受け止められそうです。



カジカガエルの卵探し



つがい(上オス、下メス)



オタマジャクシへエサやり



カエルの姿に育ち、いよいよ外の世界へ



放流(東友枝川)

